

耐雨性に優れたカンキツ黒点病の防除対策

果樹試験場 副主査研究員 直川 幸生

【要約】

ウンシュウミカンの黒点病に対して、マンゼブ剤(商品名:ジマンダイセン水和剤、以下、Mn剤)400倍へのパラフィン系展着剤(商品名:アピオン-E、以下、P剤)1,500倍の加用散布は慣行のMn剤600倍単用散布と比較して耐雨性が優れ、降雨状況に合わせて散布間隔を延長することで年間の防除回数を削減することができる。

【背景・ねらい】

カンキツ黒点病の慣行防除剤であるMn剤(600倍)は散布後30日以内、または累積降雨量200~250mmが再散布の目安である。これまでの研究から、ウンシュウミカンではMn剤(400倍)へのP剤(1,500倍)加用散布は慣行のMn剤(600倍)単用と比較して耐雨性が優れることが明らかとなっていたものの、散布間隔の延長に関する知見はなかった。そこで、体系防除における散布間隔を延長することで、防除回数削減の可能性について検討した。

【成果の内容・特徴】

- 1) 年間の体系防除試験の結果、散布間隔延長区(Mn剤400倍+P剤)は慣行である対照2区(Mn剤600倍)と比較して高い防除効果を示した(図1)。
- 2) 散布間隔延長区は降雨状況に合わせて散布間隔を延長しても、対照1区(Mn剤400倍+P剤)と同程度の高い防除効果を維持した(図1)。

※Mn剤の400倍はウンシュウミカン以外のかんきつでは使用不可、適用は4回以内

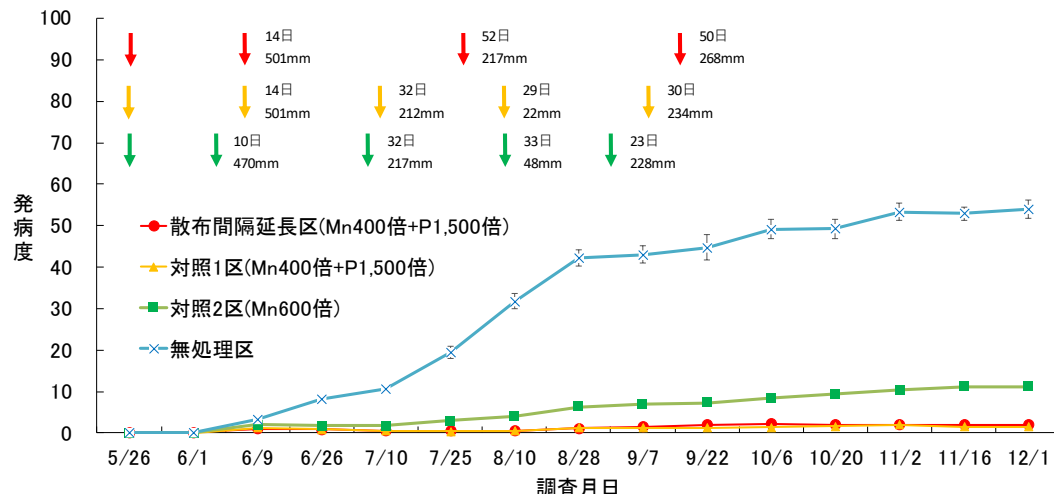


図1 試験区における発病度の推移(2023年)

以下の各区の散布基準に従って薬剤を散布した。図に示した日に1樹あたり50果の発病を程度別に調査して発病度を求めた。
 散布間隔延長区(Mn400倍+P1,500倍): 散布後30日以内では累積降雨量500~550mm、30~40日以内では累積降雨量400~450mm、40~50日以内では累積降雨量300~350mmで追加散布。最長でも50日後を目安に追加散布。対照1区(Mn400倍+P1,500倍): 散布後30日以内または累積降雨量500~550mmで追加散布。対照2区(Mn600倍): 散布後30日以内または累積降雨量200~250mmで追加散布。
 図中の矢印は各区の散布日、矢印右の日・mmは前回散布からの日数と降水量を示す。